

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

# ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター  
Fujimino International Cultural Exchange Center

2015年 夏号(季刊) 第136号

## 第17回通常総会報告!

平成27年6月14日(日) 午前10時00分～

場所: ふじみの国際交流センター  
(ふじみ野市上福岡5-4-25)

ふじみの国際交流センター第17回通常総会が6月14日に開催されました。今回は移転後のFICECをみなさんにも見てもらいたいと思い、いつも活動をしている上福岡の事務所で開催することにしました。当日は、正会員数92名のうち、出席が27名、委任状参加が38名、合計65名の参加で開催する運びとなりました。



# FICECの総会開催

(前ページより続く)

午前中は、平成26年度の事業報告と平成27年度の事業計画についての審議を行いました。

生活相談は、FICEC移転後、2市1町以外からの相談者が増え、使用言語も、従来の英語・タガログ語・中国語に加えて、スペイン語・フランス語・ネパール語・ベトナム語の通訳が必要となり、ボランティア通訳者の確保が難しくなっています。

シェルターは、事務所移転に伴い、昨年7月7日に場所を移しました。昨年同様、DV被害者に対する加害男性も半分は外国籍で日常言語が日本語ではないため、日本の生活になじめず、シェルター退去後の母子の生活が危惧されています。また、基本的な生活習慣が身につけていない家庭が目立ちます。さらに、DV被害者の95%が生活保護になるため、受け入れてくれる転居先の行政が絞られ、選定が難しくなっています。そのため、シェルターでの長期滞在者も多く、日本語の勉強に充てられる時間が増えたのは良いのですが、DV被害女性も同伴児童も勉強が苦手な人が多く、日本語の勉強の必要性を理解してもらおうに苦慮している状況です。

国際理解講座については、国際理解というよりは外国語活動に力を入れるようになった学校現場の事情もあり、学校からの依頼が少なくなりました。しかし、地域の方々からは、外国から来た方たちとどのように付き合えば良いのか、彼らはどのような支援を望んでいるのかなど、これまでより一歩進んだ内容の依頼が見られるようになりました。

上福岡にFICECが移転してから始めた国際交流サロンも、月1回のペースで開催しています。平成26年度は外国籍の方々が講師となって、フィリピンのお菓子作りや台湾料理教室、クレイフラワー講習会などを開催しました。今年5月末にタイ料理教室も開きました。今後も引き続きサロンを計画中で、決定次第ホームページでお知らせする予定です。

総会後は、インドネシア料理を囲んでの懇親会となりました。鶏肉料理にインドネシア風焼きそば、炒め物、デザートなどおいしいお料理がテーブルいっぱい広げられ、会員同士の会話もはずみました。

会員のみなさま、今度とも応援をどうぞよろしくお願いいたします。





## 広報委員会誕生

広報委員会を今年2月から新たに立ち上げました！FICECの活動をより多くの方々と共有し、支援の輪を広げようと活動を始めました。ひとまず、ブログを開設しFICECの活動内容を詳しく紹介するために、スタッフが交代で、センター内で起こる様々な出来事やセンターでの活動を通して感じたこと・感動したことなどを伝えていく予定です。ブログの内容は随時更新中です。ぜひ一度のぞいてみてください！また、従来の編集委員会のメンバーとともに「ハローフレンズ」などの会員誌、広報

誌の紙面の充実も図っていきたいと思います。

センターの活動を今後とも見

守ってくださるとうれしいです。よろしくをお願いします。

ブログURL：

<http://ficec.hatenablog.com/>



## 「ビッグイシュー」誌の取材を受けました

「中央ろうきん若者応援ファンド」のアドバイザーの「ビッグイシュー」から取材を受けました。「ビッグイシュー」は英国で始まり、その後世界のいくつかの国に広まったホームレスの自立支援をする団体で、ホームレスの人達はその雑誌を販売して生活しています。雑誌は4万人の読者があり、自閉症作家の東田直樹さんのエッセイやホームレス人生相談など人気があり本になったものもあります。外国人の自立支援を行うFICECと共通する考えをもつことから、FICECの「就労を目的とした外国ルーツの子どものための学習支援」に対する助成金交付を推薦してくれました。

当日は中央ろうきん高瀬さん、ビッグイシュー理事長佐野さん、ライターさん、カメラマンさんの4人で来所されました。今回の助成金申請に選ばれた8団体がこれから毎号登場するという事です。

ライトや大掛かりなスクリーンを使った撮影にも驚きましたが、「FICECのスタッフがたくさん苦勞している報告を読みました、若い人が活動に加わるのはFICECの魅力があるからです。苦勞以外で何かうれしかったことはありますか」と聞かれ、親に日本へ呼び寄せられた中国人の少年の話をしました。台湾人スタッフ

が通訳から書類記入、教師との三者面談までつきっきりで面倒をみた後、その少年が次に来日した中国人の子に対して自分がしてもらったように面倒を見てくれていると伝えました。「そういう外国人の自立の話をどんどんPRすれば皆さんにFICECの活動を理解してもらえますよ。」と言われました。

他にも「どうしたら情報を理解してもらえるかを工夫する」「優秀な外国籍の子どもが国の宝になっていないのはどうしてか考える」「ファンドレイジング（寄附、会費、助成金など活動資金の調達方法）のことを勉強する」等々取材に来られたのに、こちらがいろいろ教えて頂いたのは初めてです。とても勉強になりました。

FICECは「ビッグイシュー」誌8月15日号に掲載される予定です。この他にも宣伝や寄附についての有意義な情報を教えていただきましたので、ぜひ今後の参考にしたいと思いました。

「ビッグイシュー」誌は、毎月1日と15日に東京JRの主な駅前で販売者から直接購入するか、国会図書館等で閲覧が可能です。どうぞ読んでみてください。

ビッグイシュー

<http://www.bigissue.jp/index.html>

# 「FICECの国際理解講座」 ウズベキスタンの家族からイスラムの世界が見えた

6月27日、富士見市主催「第4期 子ども大学☆ふじみ」の2回目の講義が「ピアザ☆ふじみ」で行われました。

数か月前、富士見市から「イスラム」をテーマに講義を担当してほしいとオファーがありました。そこで「隣にいるイスラム教のお友達」という目線でイスラム教文化の人たちの生活を紹介しようということになりました。

ちょうどウズベキスタン人のご一家がセンターに通ってくださっていたので、お父さんには講義を、お母さんにはお料理を、お子さんにはクイズを担当してもらうことになりました。ご一家も長年日本に住んできて、自分たちの文化のことを知ってもらう機会はほとんどなかったもので、とても嬉しいと言ってくださいました。



国際理解のイベントをずっと担当している大先輩の山畑さんが中心になり、日本の小学生に身近にある異文化をいかに体験してもらおうかと話し合いました。「日本ではどうかな、という言葉がたくさん使おう」とか「ここは最初に質問形式にして答えを知ったら驚く、という流れにしよう」とか。納得できないこと、理解できないことも含めて異文化と接するということが、という一見矛盾したことを子どもたちに体感してほしいな、と思いました。それでも友達になれるよ、距離はどんどん縮められるよ、と。

大学の先生や市の担当者の方たちと話し合いを重ね、お父さんが作った講義の内容を何時間もかけて一緒に推敲したり、お料理の試作やレシピづくりをしたり、ウズベキスタンについて子どもたちが興味を持ちそうなことを調べてクイズにしてみたりと、ご一家は辛抱強く協力してくれました。



当日は、お父さんの講義内容が面白くて、スカイプを使ってウズベキスタンのお友達と生中継をつないだり、お父さんと生徒とのやり取りも面白く子どもたちの集中力が途切れませんでした。クイズやお料理も好評で、最後の質問コーナーでは質問を打ち切らなくてはならないほどでした。知りたい、聞きたいという子どもたちの好奇心の強さにびっくりしました。知ってどう考えるかは子どもたち次第です。そのきっかけをこれからも作っていかせたらと、また8月に実施する次のイベントに向けてスタートを切っています。

ともあれ「子ども大学☆ふじみ」はたくさんの方たちに助けていただき、無事に終えることができました。ありがとうございました。ホッととしてその日のご飯はとってもおいしかったです！

(国際理解講座担当 彦由 章)

## 新しい風になれたら

理事 小熊 千寿子

私と石井理事長との出会いは30年前ですから、ふじみの国際交流センター(以下センター)については立ち上げの前から身近に見てきました。私は文化的な活動やまちづくりに関する活動に没頭してきました。コンサートの企画&実行の「百人劇場」、まちづくりを目的とした「町民大学」などから始まり、市を超えた様々な活動に広がって今に至ります。また旧大井町の社会教育指導員として3年、鶴ヶ島市の市民活動推進センターでは嘱託職員として8年、「仕事」も経験しました。

現在は障がい者が働く喫茶を応援する団体「全国喫茶コーナー交流会」の事務局として、毎年開かれる全国交流会の開催、各地へ出かけての視察や研修などの活動と、その関連でアビリンピック(障がい者技能オリンピック)に

も関わるようになりました。その他「食の学校」という組織に加入しています。これは全国の安心安全な食材を作る・流通するなど食に関する仕事をする会社や人たちと、食に関する勉強会や現地を訪問しての研修等を主な活動としています。また、ひきこもりの支援活動にもゆるく関わっています。

このたび理事の一員として、センターに一歩足を踏み入れました。今までは尊敬のまなざしで皆さんの活動を側から見ていただけの私ですから、仲間としてお役に立つにはどうしたら良いのか……。

幸い好奇心の赴くままに多様な活動に参加してきた経験と蓄積を糧にして(少し違う角度から)ゆるやかに外から吹く風のようになれたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

## 見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 ナナエ

〇月〇日

離婚や結婚はもとより、職場でいじめられたフィリピン人、仕事を探しているネパール人、妻に逃げられた中国人、子どもの呼び寄せに悩むブラジル人等、FICECには毎日いろいろな人が相談に来る。先日はマルチ商法にのめり込む妻を心配した夫からの相談もあり、入管法やDV法、生活困窮者自立支援法だけでなく、担当者はあらゆる知識と情報が要求されるため、あちこちで開かれる無料講習会にできる限り参加して情報を収集してくる。警察官からストーカー法について勉強してくると次の日にストーカーに悩まされている人が相談に来たり、市役所で離婚の不受理申請の話聞いてくると、次の週に夫に「出ていけ離婚するぞ」と言われて怯えている人が来たりと、勉強してきたことがすぐに役に立つ。目的を持った学習は何とも小気味よく、最新で効果的なアドバイスができるのがうれしくてまた講習会に行く。大人の学びはなんと楽しいことか。人は本来、新しいことを学ぶのが好きなのだ気が付いた。

〇月〇日

ふじみ野市にある特別養護老人ホームの理事長は「FICECで推薦する人ならどこの国の人でもいいですよ」と言って、外国人ヘルパーを日本人と差別なく雇ってくれる。そこで働いている中国人のKさんは、介護報告書がすこしでもうまく書けるようにと時間を見つけては日本語の勉強に来る。FICECの活動を垣間見ると、日本人が外国人の為に毎日頑張っていることをいつも喜んでくれる。

Kさんは、「中国人は昔の事ばかりにこだわって日本を悪く言っている。FICECの活動を中国のテレビで放送してもらいたい」と言う。「Kさんさえ感じてくれたらいいの」と話すと、「一人じゃダメ。中国人は13億人もいるのだから」と言う。人と関わることで幸せを感じ、必要だと思っただけでやってきたことが汗をかいても喜べる事であると気が付く。世界の中の日本だから日本の中の世界を大切にしたい。



## ウズベキスタンの結婚式

## イスマイロワ・マストラホン

以前「インフォメーションふじみの」に「すてきな隣人」という連載がありました。今回はそのページの特別復刻版を作成してみました。FICECとかかわる外国の方にテーマを決めてお話を伺い、その国らしさを感じ取っていただけたらと思います。今回は、ウズベキスタン出身のマストラさんに「結婚—ウズベキスタンでは—」についてお聞きしてみました(広報担当:小林・加藤)。

担当:「マストラさんは、いつご結婚されましたか。」

マストラ:「17歳で結婚しました。ちょっと早い(笑)。普通は20歳くらい。男性は23~25歳くらい。私たちの両親が知り合いで、親に勧められたのがきっかけです。夫はそのとき日本に留学する事がもう決まっていて、結婚2年後に日本へ来ました。国では、17歳で成人とされ、自分のパスポートもとれます。」

担当:「ウズベキスタンでは親に勧められて結婚するのはよくあることなのですか。」

マストラ:「まず気になる人ができたら、自分の親に伝えます。その後、親が相手の男性や女性のことを調べます。相手の親も、こちらのことを調べます。それでお互いに許可が出れば、男性が女性の家を訪れるか、公園や別の場所で会います。そこで二人で話して気が合えば、両親に伝えて結婚のパーティーの日を決めます。許可が出てから式まで1ヶ月から半年くらい、なるべく早く。もちろん断ってもいいけれど、はっきり断るのは良くないことなので、“今年はまだ結婚しないんです”とやんわり断る(笑)。恋愛結婚もありますが、親の許可がないと結婚はできません。たいていの人は結婚します。離婚もあります。また次の人を探して結婚します。」

担当:「ご両親の意見も大切にされるのですね。結婚すると家はどうなるのですか。」

マストラ:「女性は最初夫の実家で暮らします。家が広いので、空いている部屋があり、そこに準備して来た荷物を運び入れます。弟が結婚したら兄は家を出て新しい家に住みます。親は子ども

が小さいうちから新しい家を建てる準備をしなくてはいけません。そして親の面倒を見るのは一番下の弟。老人ホームへ親を預けるのは、国ではよくないこととされています。」  
担当:「そうなんですね!日本ではそういう考えは少なくなってきました。結婚式の当日はどのようなことをするのですか。」

マストラ:「当日は結婚式の前、新郎が正装して新婦の家に行き、イマムと呼ばれるイスラムの聖職者の前で結婚の誓いをします。この人と結婚するか3回新婦に聞き、最後にYESなら結婚OKとなります。その後新郎の家の庭かレストランでパーティーします。骨付きの羊の背肉を新郎が一口齧り、その後皆で分けて食べます。私の幸せにあやかってくださいという意味です。午前中は男性が食べて、午後は女性。その後みんな入り混じってダンスなどをします。私の結婚式にはウズベキスタンで働いている日本人の友人も出席してくれました。」

担当:「新郎の幸せを皆におすそわけ!すてきな習慣ですね。ウズベキスタンではパーティーがたくさんあるとお聞きしましたが、結婚式の後も何かパーティーをするのですか。」

マストラ:「女性は持って来たドレスや寝具などで、新居の壁を飾ります。これは友人などに見せるため、しばらくそのまましておきます。私の母は20枚もの手作りの寝具を持たせてくれました。結婚後、40日間は日没後あまり外へ出ません。夜は危険や邪気があるから悪いものにつかないようにするためです。1年間新婦は独特な柄の新しい服を着るので、すぐ新婚さんと分かります。40日経ったら新婚さんの部屋を披露するのをやめ、部屋を飾っていた飾りははずすパーティーをします。」

(●取材を終えて)マストラさんは、もうすぐ弟さんの結婚式に出席するため、故郷に帰るのを楽しみにしています。ウズベキスタンでは、本当によくパーティーを開くそうです。結婚の時も様々なパーティーを経て式の当日に至るようです。結婚の申し込みを断る時に、はっきりノーと言わないというのが、なんだか日本のようです。



## 「国際交流サロン:タイ料理教室」 絶品「春雨サラダ」で大満足

5月30日土曜日、上福岡西公民館に於いて国際交流サロンの企画で「タイ料理教室」が開催されました。

講師は日本人の男性と結婚して来日したタイ人のプランさん。17人の参加者が四つの班にわかれて、「グリーンカレー」、「春雨サラダ」、「ガパオライス」、「タピオカとココナツミルクのデザート」の4品を作りました。

スタッフが料理に使う新鮮なハーブを探して、新大久保のスーパーまで行ったり、先生も前もって白キクラゲや緑色のタピオカなど手に入りにくい食材を用意してくださったりしたこともあり、どれもとてもおいしく出来ました。特に「春



雨サラダ」は好評だったので、今年の総会後の懇親会にもう一度作って、提供したほどです。プランさんのタイと日本の文化の違いの話も含めて最後まで楽しい一日でした。

詳細はブログにアップしてありますのでぜひそちらもご覧ください。

<http://ficec.hatenablog.com/>

## イベントのお知らせ “ふじみ野市誕生10周年記念事業”

### Let's Enjoy 世界の子どもの遊び

開催日時：

平成27年8月30日（日）13：00～16：00

場所：ふじみ野市西公民館集会室

中国、フィリピン、スリランカ、ネパール、ウズベキスタン、パキスタン、etc...から集めた世界のおもちゃってどんなもの！？ 世界のおもちゃで一緒に遊んでみよう。

ふじみの国際交流センター「子どもクラブ」に来ている子どもたちも、世界の遊びを紹介してくれます。ぜひ遊びに来てください。

問い合わせ：ふじみの国際交流センター  
Tel 049-256-4290

### Let's Enjoy 大人のトーク

#### 「外国人の主張、日本人の主張」

テーマ「宇宙から見た地球」国と国、文化と文化の溝を埋めよう。～交流を通して理解しあおう～

開催日時：

平成27年10月4日（日）13：00～16：00

場所：ふじみの国際交流センター

参加者募集中です：外国人10人、日本人20人

外国人が自国の紹介と、日本に暮らして感じた事などを発表し、その後、全体で話し合いやグループに別れてのフリートークを行います。お茶と手作りのお菓子（台湾のココナツタルト）付き。身近で国際交流を楽しんでみませんか。

問い合わせ：ふじみの国際交流センター  
Tel 049-256-4290

## センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

### ●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

### ●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関誌をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
口座名：ふじみの国際交流センター

## ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

### ●2015年1月～(50音順・敬称略)

朝倉房枝、阿澄康子、荒田光男、イオン(株)大井店、石塚雄康、板倉浩子、伊藤真弓、岩田仁、尾浦与子、大澤エミリー、太田原裕、小原知子、加藤久美子、加藤惣一郎、加藤由里子、金沢国勝、神田順子、丘亜蘭、樟山直美、熊谷洋興、小林暁美、駒形一夫、佐藤義治、鈴木プレシーラ、高橋博、竹内直江、田中つや子、坪田幹男、戸塚成子、中村禎作、沼田伊久俊、野沢弘子、長谷川正江、東入間地区遊技業防犯協力会、彦由真希、矢澤美紀、柳下昌英、山畑博子、日下エレナ英語教室、山崎友理中国語教室、FICECパソコン教室受講者一同

埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

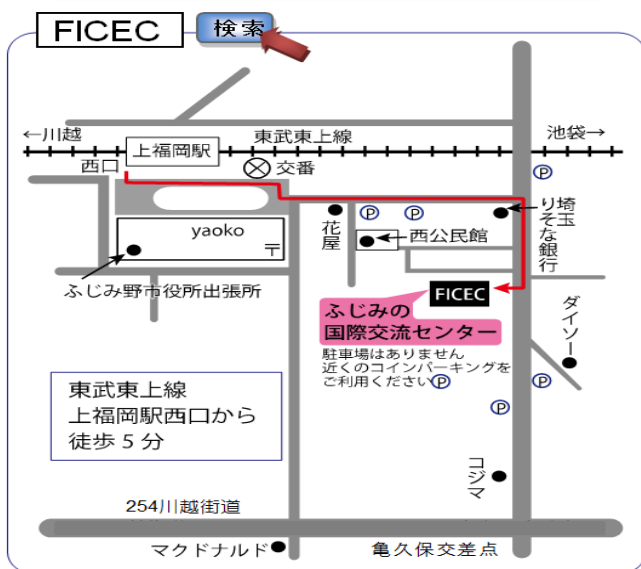
## 外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



## ふじみの国際交流センター サービス案内

外国人ゲスト派遣	国際理解講座	3,000円+交通費+事務費	
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)	
日本人講師派遣	多文化共生講座 ボランティア講座	20,000円+交通費 (活動運営のためご協力ください)	
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等		内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報紙・ガイドブック・チラシ等の制作		応じて相談
翻訳	出生証明、結婚証明、 独身証明、戸籍謄本等	A4 2,000円/ページ	
	その他の文書	A4 3,000円~/ページ	
通訳	半日	5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日	
●印刷機、コピー機が使えます			
印刷機	マスター(製版代)1枚	100円	
	印刷代1枚	1円	
コピー機	白黒	10円/枚、カラー	30円/枚

埼玉県指定・認定  
特定非営利活動法人 **ふじみの国際交流センター**

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25  
TEL:049-256-4290 FAX:049-256-4291  
生活相談専用電話 049-269-6450

## ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。